

2019年7月25日

各位

会社名 株式会社トーヨー建設
代表者名 代表取締役 岡田吉充
所在地 東京都葛飾区柴又 7-1-11

一般廃棄物から生成される有機肥料の共同研究に関する ベトナム国家農業大学との MOU 締結のお知らせ

当社は2019年7月12日に、VIETNAM NATIONAL UNIVERSITY OF AGRICULTURE（以下「ベトナム国家農業大学」という）と一般廃棄物から生成される有機肥料の共同研究のMOUを締結いたしました。

記

1. 概要

トーヨーグループはかねてより、日本国環境省、在ベトナム大使館、その他機関のご支援をいただきながら、「ベトナム国ハノイ市における分別およびメタン発酵発電による一般廃棄物の有効利用事業」（以下「当該事業」（別紙、事業概要参照））の実現可能性調査を実施しております。

この度、当該事業から生成される有機肥料に関し、ベトナム国家農業大学と共同研究を実施いたします。



2. 本MOUの目的

当該事業は、一般廃棄物日量約1500トンを受け入れ、メタン発酵発電で環境負荷の少ない資源循環型処理により、再生可能エネルギーによる低炭素社会と持続性社会発展の実現を目的としております。メタン発酵で生成される消化液は有機性肥料であり、それを有効活用する事業でもあります。

本MOUにおいて、「廃棄物からの新しい有機肥料商品の開発」「新しい有機肥料の製造と商業化」「ベトナムにおける農作物用の新しい肥料のガイドライン構築」「トーヨーグループとベトナム国家農業大学との交流による人材育成と強化」を共同研究の内容としてベトナム農業の発展や農業政策の課題解決に貢献してまいります。

(別紙)

■事業概要

当該事業はすでに、昨年 6 月にハノイ市と MOU を締結しております。ハノイ市で発生している一般廃棄物日量約 6000 トンのうち、1500 トンを受け入れ、適切な廃棄物処理、エネルギー利用と良質な堆肥化を行います。主として家庭から排出された一般廃棄物を、前処理プロセスにおいて、有機系廃棄物とリサイクル可能な金属・プラスチック類等に分別します。有機系廃棄物は専用に開発されたプレス機で平滑処理され、嫌気性発酵槽に移送、メタンを主成分とするバイオガスを発生し、エンジンにより発電を行います。発酵残渣は脱水装置に送られ、良質な固形堆肥となります。リサイクル可能品は、金属品類等が回収されたのち、一部が RDF または SRF 化され、少量の残渣物は、埋立処分され CO₂ の削減や資源の循環にも寄与いたします。

ベトナムでは、経済発展・人口増加・都市の近代化に伴い、一般廃棄物の排出量が急激に増加する一方、その適切な処理方法が確立せず、埋立処分場の不足をはじめとして、様々な課題が生じております。当該事業は、これら廃棄物問題の解決に貢献するものと期待されております。



昨年 6 月ハノイ市との MOU 調印式の様子

■トーヨーグループについて

「人に寄り添う企業」を掲げ「安心安全で住みやすい街づくり」を目指しております。国内外において、兵庫県養父市の国家戦略特区でメタン発酵バイオマス発電設備と農業施設、石川県輪島市では木質ガス化発電、インドネシアでは JCM を利用した 12MW 小水力発電設備、福島県を中心とした太陽光発電設備、筑波大学と農業事業等の共同研究など、全てのプロジェクトをエンジニアリングからおこないます。今後あらゆる分野にてさらなる雇用創出や地域経済の活性化のみならず、CO₂ 削減等の持続可能な社会の構築に寄与してまいります。

お問い合わせ先 株式会社トーヨーホールディングス 広報室

電話：03-4400-6104 MAIL: toyo@toyo-group.com